

私は、幸いなことに四十年以上、会計人として上場企業から中小企業まで、つぶさに現実の経営（社長の判断・行動・結果）を凝視して来ました。

全くの徒手空拳から中堅企業に成長された社長、親から引き継いだ優良企業を廃業の淵に落としてしまった社長、厳しい経営環境の中、見事に業種転換された社長、いろいろな社長がおられました。

オイルショックや為替の変動、とりわけ「バブル経済」の始まりから終わりまで一部始終を観てきました。荒れ狂う経営環境に振り回され経営の現場から退場を余儀なくされた社長、逆に、不動産の値上がりやマネーゲームも、どこ吹く風と泰然自若と対応された社長も観て来ました。

この新型（武漢）コロナの対応も、終わってから静かに振り返れば、全く違う判断・行動をされていた社長がいたことが解るでしょう。

社長は、何を判断基準に日々行動しておられるのでしょうか。どんな哲学・信念をお持ちなのでしょう。そして、どういう社長が、正々堂々とした経営をしておられるのでしょうか。

「武士道とは、死ぬことと見つけたり」

「本氣にては大業は成らず、氣ちがいに成りて死に狂うて初めて成るものなり」と、佐賀鍋島藩士の山本常長が、武士の心得を『葉隠』に残しました。

多くの社長は、貴重な本も一通り読んで終わりです。目を通しただけで解ったつもりになっています。一言一句、丁寧に読みながら線を引き、二種類のマーカーで色を塗り、気になる事は書き込み付箋を付けて、二度も三度も繰り返し読み、竟には、行間を読む所まで行っている社長は、極々僅かです。本が自分か、自分が本か、分からない所まで読みこんで頂きたいのです。

日々の経営においても、全く同じです。サラッと一通り部下の意見を聴いているだけで、現場を自分の眼で見えていません。自ら、在庫品のチェックなど何年もしていません。これでは、いい社長とは言えません。

「死ぬことと見つけたり」社長自らが、今日を人生最後の日という覚悟で真剣に生きているでしょうか？明日死んでもいい程、全力投球しているでしょうか？

「本氣」などという甘っちょろいレベルではなく、まさに「狂」のレベルで考えに考え、創意工夫しているでしょうか？無我夢中になっているでしょうか？

人生は、せいぜい三万日（八十年余）です。残り何年ででしょうか。その残り時間も確保されている訳ではありません。

社長、今こそ、我々商人の武士道である「商道」を胸に、日本の将来のためにも、ど真剣に、日々実践し、混迷の世界に光を投げかけて参りましょう。

今月のポイント

商道に戻り、吉界を正しくリードすること。

